

①氏名 (フリガナ)		村越 啓雄			
②住所		千葉県			
③電話番号				メールアドレス	
④職業				⑤年齢	⑥性別
意見該当箇所		⑦御意見			
頁	行				
		<p>今回の意見募集は、有識者会議事務局あて、となっておりますが、これは国民が国土交通大臣あてに提出されたもの、従って、有識者会議で取りまとめるものではない、と理解しています。</p> <p>その理由は、この有識者会議のあり方に問題があると認識するからです。</p> <p>まず、今回選定された有識者とは、議事録で意見を聴取する範囲において、既存の河川行政を推進、指導してきた者たちではないか、と思われることです。</p> <p>この有識者会議の設置目的は、従来の河川行政を政策転換し、「できるだけダムにたよらない治水」へ進めるために設置されたものと記されていますが、有識者の発言は、従来の実績を誇示し、他の議論を排除することを平然と発言していること、また事務局もこの発言を許容し、有識者会議の議論の方向として議事録に記録されていることです。</p> <p>第2回有識者会議 議事録43ページから。</p> <p>【委員】 どうぞ。</p> <p>【委員】 きょうは参考人の話を聞きましたけれども、我々はあくまで聞いただけで、この中身の全てがオーソライズされたという観点はないと思うのですが</p> <p>【委員】 それは委員会として呼んで、その本人がどこで何を言おうと、そんなことは関知したことじゃない。全然ない。</p> <p>【委員】 もちろんそれは個人……。</p> <p>【委員】 ここでやっているのは、学者の会議とは違うんだから。役所というか、〇〇（政務三役）の会議だから。そんなもの何とも思わなかったらよい。</p> <p>【委員】 そういう認識でよろしいですか。</p> <p>【委員】 そういうことです。放っておいてもいいんだから。そんなこと言って……。</p> <p>このような発言をし、また取りまとめる有識者会議は、国民の意見募集の結果について、聞く耳を持たないことが明確です。</p> <p>有識者会議事務局は、有識者の意見を基に作成した中間とりまとめ（案）に対比して、国民から提出された意見を整理し、従来の河川行政を政策転換できる、中間とりまとめとするよう、国土交通大臣の名のもとに、有識者会議を指導してください。</p>			

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ（案）に関する意見

①氏名 (フリガナ)		村越 啓雄			
②住所		千葉県			
③電話番号				メールアドレス	
④職業				⑤年齢	⑥性別
意見該当箇所		⑦御意見			
頁	行	(200字を超える場合は200字以内の要旨も記載)			
23～ 24		<p>(9) 決壊しない堤防 (10) 決壊しづらい堤防</p> <p>堤防が決壊する可能性があり(10項)、仮に決壊しない技術が確立されれば(9項)と、堤防が決壊することは必然であるとの記載は、驚きである。</p> <p>堤防とは決壊しないものであり、予測しがたい場合に決壊の可能性が残されているが、その万一のための施策を永年月、莫大な国費、地方費を投じてきたのではないのか？</p> <p>決壊する堤防に一基数千億円もの経費でダムを建設して治水がどう保たれるのか、矛盾もはなはだしい。</p> <p>川の治水とは、まずは現状の堤防の整備を第一に進め、浸食、浸透、越水に耐えられる施策を講じること。</p> <p>「仮に決壊しない技術が確立されれば」などと既存の権威に胡坐をかいて思考停止になっている有識者は不要であり、既存の土木業界に限らず、幅広い技術者を呼集して「決壊しない堤防」の技術開発を国の施策として進め、民主党の施策である、第三の道につなげて行くべきである。</p>			

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ（案）に関する意見

①氏名 (フリガナ)		村越 啓雄			
②住所		千葉県			
③電話番号				メールアドレス	
④職業				⑤年齢	⑥性別
意見該当箇所		⑦御意見			
頁	行	(200 字を超える場合は 200 字以内の要旨も記載)			
40 54	3 8	<p>地域振興に対してどのような効果があるか</p> <p>第 2 回議事録 41 ページから</p> <p>地方にダムをつくるという場合、その地域経済に与える影響というのが、地元の期待と、そして、今までも、景気浮揚もそうですけれども、コンクリートをたくさん使ったものをつくるということが日本経済を成長させるという論理が通ってきたわけなんですよね。</p> <p>このことはどう考えるかというのは、今まで何十年もかかって、何年にもわたって付帯工事も含めてダムを作っていくということが、地域に人を集めて雇用の場をつくり、そしてそこにお金を落とすという仕組みがかなり、推進する側のメカニズムとして効いてきたわけです。この点をどう考えるのか。例えば、ある山奥につくるダムをやめて、下流のほうの堤防を強化するといった場合には、全体としてコストは安くなるかもしれませんが、同じ地域経済の問題というのは残るわけです。</p> <p>第 2 回有識者会議での上記議事録のとおり、地域振興にとって最も関心のある項目は、治水、利水に共通する、建設工事に伴う土木建設事業、造園事業などの建設工事と工事に伴う作業員の飲食業などへの消費を期待するものであることが、やんばダム建設地でのやり取りで明白となっているにもかかわらず、中間とりまとめ（案）には地域振興としての記載が無い。</p> <p>しかし、これは本来、建設段階における一過性のものであり、地域振興の名の基に、建設期間を引き伸ばして永続させ、仕様の追加、設計の変更などを行って、工事期間の延伸と、工事費の増額をもたらしてきた弊害の歴史がある。</p> <p>これらは、持続性のある地域振興策とはなり得ないことを明らかにする必要がある。</p>			